

晴れ着に身を包み、決意新たに

～平成17年登別市成人祭～

1月9日(日)、登別マリパークニクスで『平成17年登別市成人祭』が行われ、晴れ着やスーツに身を包んだ新成人が大人の仲間入りをしました。

今年の新成人は、昭和59年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた男性450人と女性308人の計758人で、昨年より26人減。このうち、男性239人と女性247人の計486人が成人祭に参加しました。

式典は、市内在住の三味線奏者・白田路明さんの演奏で幕を明け、黒崎清成人祭実行委員会委員長のあいさつの後、上野市長が「これからのまちづくりを担っていくのは、若い皆さんの情熱から生まれる創造力と行動力。幾多の試練を乗り越え、未来へ向かって前進してください」と新成人に激励のことばを送りました。

続いて、新成人代表の佐藤真さんと太田ゆかりさんが「限りない可能性を秘めた若者として自分を磨き、何事にも積極的に取り組むよう努めます」「豊かな心を持った若者として心身を鍛え、ふれあいとぬくもりが育つよう努めます」と二十歳の誓いを力強く述べました。

式典後、新成人たちは、久しぶりに再会した友人と談笑したり、記念写真を撮り合ったり、和やかに旧交を温めていました。



▲新成人を代表して『二十歳の誓い』を述べる太田さん(中央)と佐藤さん(右)

新年を祝って、ワッショイ!

～干支みこし～



1月1日(土)、幌別小学校かららいば公園(登別中央ショッピングセンター・アーニス横)までの約400mに『干支みこし』が繰り出し、新年の景気付けを行いました。

正月恒例のこの干支みこしは、まちづくりグループ『のぼりべつ干支みこし会』が毎年行っているもので、今年も1日の午前0時に合わせて、みこしがスタート。

氷点下の冷え込みの中、法被にねじり鉢巻き姿のメンバー約60人が今年の干支・酉をはじめ、申や未などを飾った手作りのみこし7基を威勢よく担ぎ、深夜の中心街に「ワッショイ、ワッショイ」と息の合った掛け声を響かせると、沿道に詰めかけた市民は、練り歩くみこしとともに、良い年を祈願していました。

障害者にやさしいまちを創る

～『登別市障害者福祉計画』策定作業スタート～

1月11日(火)、しんた21で、『登別市障害者福祉計画市民策定委員会』の初会合が開かれました。

同委員会は、市の障害者福祉の施策指針を定めている現在の『登別市障害者福祉計画』が平成17年度で終了することを受け、次期計画(平成18年度～)の策定を行います。

関係団体から推薦を受けた方や有識者、一般公募の委員計30人に上野市長から委嘱状が交付された後、早速、会議に入り、同委員会の役員選出が行われました。

互選により委員長に選ばれた登別市障害者団体連絡協議会の熊谷昭吾会長は、「皆さんの意見を聞き、住民ニーズを十分踏まえて策定に当たりたい」とあいさつ。

今回の会議は、2月を予定し、『在宅・施設・保健医療』『総務・自立支援』『教育支援』の3部会を設けて、本格的な協議・検討を始めることにしています。

